

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差											
学年		第6学年		学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年			
年度		国語	算数	合計		年度		国語	算数	国語	算数	国語	算数		
令和12年度の目標						令和12年度の目標									
令和11年度の目標						令和11年度の目標									
令和10年度の目標						令和10年度の目標									
令和9年度の目標						令和9年度の目標									
令和8年度の目標		+2	+2	+4		令和8年度の目標		+1.5	+1.0	+1.5	+1	+1	+2	+2	+2
令和7年度の結果		-1	-4	-5		令和7年度の結果		+0.6	-2.3	+0.5	-2.2	+0.5	+1.2	+0.3	-1.1
令和6年度の結果		+1	-5	-4		令和6年度の結果		-1.4	-5.7	+1.8	+2.4	-1.6	-4.8	+3.7	-2.5
令和5年度の結果		-4	-7	-11		令和5年度の結果									

年度		令和7年度		令和8年度									
内容		成果と課題		目標		目標達成に向けた取組							
学校全体		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○江戸川区授業スタンダードに基づいた授業を行い、計算や漢字などの基礎学力が身に付いてきた。 ○読書の時間や物語学習の時間、よむYOMUを通して、読む力が身に付いてきた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科では、文章を書くことが苦手な児童が多い。 ○算数科の応用問題や文章問題の正答率が低い。 		<p>○基礎・基本の確実な定着を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読む力・文章を構成する力を育成する。 ○応用力・活用力の向上を図る。 ○個に応じた指導の充実させる。 		<p>○計算カードやプリント、ベーシックドリル等を活用した反復練習を行い、家庭との連携をし、家庭学習でも取り組ませている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○よむYOMUプリントを活用し、文章を正確に読み、正しく文を書く指導に力を入れていく。 ○図、数、式を使い説明させたり、式の意味を考えさせることで「考える力」を育て、応用問題にも対応できるようにする。 ○習熟度別学習や自己調整学習を取り入れ、個に応じた学習ができる環境を整える。 							
第1学年		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科・算数科ともに、学習の入門期であるため、江戸川区授業スタンダードに基づき丁寧に学習を進めてきた。友達との交流の中で、「勉強は楽しい」という意識をもたせることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ひらがなの読み書きの習得が不十分であることや語彙力や文章力に個人差が大きい。 ○計算をする力の個人差が大きい。時計を読む問題と、問題文を基に場面を想像して立式する問題は、苦手な児童が多い。 		<p>○国語科の授業で言葉集めを行い、語彙を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○繰り上がり・繰り下がりのある計算をすらすらできるようにする。 ○時計を読むようにする。 ○問題文を読んで立式できるようにする。 		<p>○目直のスピーチなどの話す活動や自分の考えや気持ちを書く活動を繰り返し取り組ませ、友達と交流させることで、良い表現に気付いて取り入れられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○計算カードを授業の空いた時間に取り組ませたり、保護者の協力を得ながら家庭学習で繰り返し取り組ませたりする。 ○算数科の授業以外でも、日常的に時計を読む場面を多くする。 ○授業の中で問題文を図で表すことを繰り返し取り組ませる。図を基にどんな式になるのか考えさせる。 							
第2学年		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○算数科では、年間を通して、計算・音読を行う機会を設けることで、計算力の素地を養うことができた。 ○国語科では、児童の意欲を喚起し、日記指導を行ったことで、児童が表現することや文章を書くことに親しむことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学期末テストでは、計算スキルを利用して解を導く文章問題の正答率が7割程度にとどまった。 ○主述の関係が整っていない文章を書く児童が2割程度いる。 		<p>○身に着けた計算技能を、応用問題でも活用できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主述の関係を理解させ、正しく表現できるようにする。 		<p>○算数科では、授業中に式の意味を理解する時間を設け、計算技能と数理的思考が結びつくようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主述関係の理解では、週に一回朝学習の時間等を活用し、主述合わせゲームを行い、感覚を養う。 							
第3学年		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科では、毎日の漢字練習や漢字テストに丁寧に取り組み、読み書きの力がついてきている。 ○国語科では、江戸川スタンダードを基にした授業の展開や読書の時間を通して、登場人物の気持ちを想像して、読む力が育ってきている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○算数科では、繰り下がりのある引き算、あまりのあるわり算、三角形の作図など、基本的な内容の理解に課題が見られる。 		<p>○基本的な学力（漢字・計算）を確実に定着させ、活用できる力を育てる。</p>		<p>○各教室に国語辞典を置き、いつでも手に取れるようにし、国語辞典を使えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ドリルパークや計算プリントなどで計算練習（反復練習）を丁寧にを行う。 ○習熟度別学習を徹底し、児童一人一人にあった学習をすすめていく。 ○毎日の漢字練習や漢字テストに丁寧に取り組む。 							
第4学年		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科・算数科ともにスタンダードを基にした授業を展開した。基礎・応用ともに国語は全国平均を上回った。算数は全国平均を下回ったが、7割に近い点数が取れていた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○算数が基礎・応用ともに約2点、全国平均を下回った。朝学習で基礎基本の問題を解いているが、文章題など応用問題に課題が残った。 		<p>○国語科では、文の構成をとらえるなど長文をしっかりと読めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施する。学年相応の基礎的な事項をしっかりと身につけていく。 		<p>○国語科では朝学習で行っているよむYOMUを継続して行い、長い文章に慣れさせ、読解力を高めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科の「書く」力を伸ばすために文章を書いたら推敲させ、読みやすい文章を意識させる。 ○算数科では、基礎基本を繰り返し行い、身に付けさせていく。 ○算数科の応用問題対策としては、授業の中で考える時間を十分確保していき、思考力を高めていく。 							
第5学年		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特に算数科では「学力定着度テスト」の結果を基に、苦手領域・単元を朝学習に重点的に取り扱ったことにより、正答率が大幅に上がった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○江戸川区学力調査の結果から、国語科では主に文章を構成について、算数科では「分数」の計算の正答率が低かった、さらに共通して文章問題の読解に、課題がある。 		<p>○算数科では、A層の割合が減り、D層が増加してしまったことから、引き続き習熟度別での授業を展開しつつ、統合・発展を繰り返す授業づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科では、文章を声に出して読んだり、文章を書いたりする活動を積極的に取り入れる。 		<p>○算数科では、習熟度別に授業を展開する。A層では、主に演習や発展問題をさらに行い、C層に対しては、既習を振り返るよう声を掛けていく。さらに、担当教員と連携を取り、教え合い活動などを行い相互に学習の理解を深めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○朝学習で行っているよむYOMUを継続して行い、長い文章を読み、慣れさせて語彙力を高めていくとともに、自分の考えを文章に書く活動を取り入れることで、文章構成などの「書く」力を身に付けさせる。 							
第6学年		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科では、スタンダードを基にした授業を展開した。全国の学力調査では東京都の平均より低かったが、朝学習等で学習の振り返りを反復して行うことで、江戸川区学力調査では、平均正答率より上げることができた。学校としては成績が年々伸びてきている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○江戸川区学力調査の結果から、国語科では、「書くこと」、算数科では、応用問題の得点率が低かった。 		<p>○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施する。また、図、数、式を使って問題を解決できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科では、文章を書く時間を確保し、書く力を高めていく。 ○どの教科でも自己調整学習を取り入れ、個に応じた指導を実践する。 		<p>○算数科の授業では、タブレットやホワイトボードを活用し、自分の考えを図や数、式を用いて説明できるようにする。習熟度別に児童の学力に合わせた授業を展開していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科では、書く授業に力を入れ、教科書や友達の良い表現を真似しながら表現力を高めさせる。 ○授業の内容によって自己調整学習を行っている。一斉授業よりもさらに深い学習ができるようになっている。同じ問いに取り組んでいる同士で互いの答えを共有することによって、より深い学びが得られるようにしている。 							